

令和 5 年度環境教育関係事業について

1 はじめに

本市では、「札幌市環境教育・環境学習基本方針」（以下「本方針」という。）に基づき、環境教育・環境学習の取組を推進しています。

誰もが、これからもずっと安心して暮らしていくためには、一人一人が身近な環境について真剣に考えて、行動する必要があります。本方針は、今のことだけではなく未来のことも想像し、自分のことだけではなく周りにいるみんなのことを思い、そして、生き物同士のつながりなどの地球環境のことを真面目に考えて、やるべきことを自ら判断し、積極的に取り組む「環境市民」を、学びを通して増やすことを基本理念としています。

本方針の第 4 章には、人々が環境問題を理解し、環境保全の行動を進め、さらに多くの人に行動が広がるよう、札幌市が主体となって推進する四つの取組として「(1)学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進」、「(2)「環境人材」の育成」、「(3)環境教育・環境学習の場と機会の充実」、「(4)普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し」が示されています。

本資料では、環境局環境都市推進部環境政策課等が行う環境教育関係事業に係る令和 5 年度の実施状況及び今後の実施予定について、これら四つの取組に沿って報告します。

札幌市が主体となって推進する環境教育・環境学習に関する取り組み

札幌市環境教育・環境学習基本方針で定めた 4 つの取り組み

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
- (2) 「環境人材」の育成
- (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
- (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

2 令和5年度の実施状況及び今後の実施予定について

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

ア 環境副教材・教師用手引書

毎年度、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に環境副教材を配布しており、それぞれ2カ年にわたって利用いただいています。また、併せて教師用手引書も作成しています。



より利用しやすい副教材・手引書とするために、「理科」「社会科」「家庭科」「生活科」「特別な教科 道徳」の各担当教員によるワーキンググループを組織して毎年度、改訂作業を行っています。

令和5年10月に行ったワーキンググループ会議では、前回の推進委員会でいただいたご意見を踏まえ、学校における副教材の活用度向上や今後の副教材のあり方に関して意見交換会を実施しました。そこで出たご意見に基づき、今年度の改訂においては、先生方が環境副教材を使いやすくするため「教科書との活用対応表」の充実化や、環境副教材の内容に関連した内容のHPにアクセスするための二次元コードの追加などを予定しております。(参考資料1)

イ 環境教育へのクリック募金

インターネットを活用した環境教育への支援制度です。札幌市環境プラザのホームページ上で、協力企業（現在は7社）の環境活動を紹介しており、閲覧数に応じた金額（1クリック5円、月額上限2万円/社）を協力企業からご寄附いただき、それを原資に環境教育教材を購入し、希望する小中学校へ寄贈しています。

令和5年度は、令和4年度のクリック実績に応じて、協力企業様から合計168万円ご寄附を頂きました。申込学校数が計74校と、昨年度（計40校）に比べ約2倍の申し込みがあり、寄附金額を大きく上回ったことから、やむを得ず抽選により、小学校37校、中学校7校、特別支援学校1校の45校に手回し発電機、気体検知管、トマトやキュウリ等の野菜の苗などを寄贈しました。

なお、クリック募金のホームページ上には、寄贈された環境教育教材が各学校においてどのように活用されたのかを「事業報告書」として紹介しています。

(参考資料2)

また、クリック募金の周知を図るため、地下鉄掲示板へのポスター掲示や「さっぽろこども環境コンテスト2023」会場でのパネル展示を行いました。



クリック募金PRポスター
(地下鉄東豊線さっぽろ駅)

ウ エコライフレポート

子どもたちが声掛け役となって、家庭におけるエコ行動を促す取組として、平成19年度にスタートした事業です。

夏休み及び冬休みの前に、市立小中学校の全児童・生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配布します。

今年度の夏休みは「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズとして、節電や節水、地産地消に取り組んでもらう内容としました。

また、学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、これを記した「認定証」を配布しており、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものについては、認定証の中に「他にもこんな取組をしてくれました」という欄を設けて紹介しています。



今年度の冬休みは、引き続き「ゼロカーボン都市をめざそう！」をキャッチフレーズに、節水や節電、食品ロス防止に取り組んでもらう内容とともに、生物多様性の保全に関する記事を掲載しました。(参考資料3)

なお、昨年度からは、紙のエコライフレポートを各学校で回収・保管し、環境局において集約・集計するという一連の事務作業の負担を軽減するため、教育委員会と協議し、一人一台配布されているタブレットのウェブアプリケーション「Google フォーム」を使用し、各児童・生徒がタブレットに取組結果を入力してもらう形式に変更しております。今年度の夏休みは、昨年度と比べ取組状況が改善しており、各学校に向けた入力方法変更の周知が一定程度進んだものと考えられます。

児童・生徒の取組状況

年度	取組学校数[校]		児童・生徒数 [人]		取組人数 [人]		取組率 [%]	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬
令和元年度	299	298	132,935	133,038	126,859	124,282	95.4	93.4
令和2年度	295	298	132,842	133,133	124,874	124,977	94.0	93.9
令和3年度	296	296	133,335	133,335	125,221	123,329	93.9	92.5
令和4年度	297	273	132,541	123,064	108,614	105,814	81.9	85.9
令和5年度	293	-	130,679	-	111,685	-	85.5	-

エ 校外学習用バス貸出

環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小中学校を対象に校外学習用バスの貸出事業を行っています。

学校現場のニーズなどを踏まえ、平成28年度から市外近郊や民間施設も見学対象施設に加えて、太陽光発電や風力発電の設備、LNG（液化天然ガス）基地などを校外学習モデルコースに組み込みホームページで紹介しているほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応しています。

今年度の当初、貸出期間を7月から12月中旬に設定して募集したところ、全部で94校の応募があったことから、抽選により52校を貸出対象校としましたが、今春の新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴う観光需要の増加や、バス台数や運転手の不足から、バス貸出業務に応札するバス会社がおらず、入札不調となってしまいました。このため各バス会社への聞き取りを実施したところ、11月以外のバスの確保は厳しいとのことで、7～10月、12月に校外学習を予定している各学校には、個別にバスを調達していただくようお願いをしたところです。また、11月に校外学習を予定している学校分につきましては、各学校に希望を聞き取った上で再入札を行った結果、バスを調達することができ、7校が利用しました。

(参考資料4)

[バス貸出実績推移]

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
応募校数	46校	—	29校	57校	94校
利用校数	46校	—	29校	35校	7校
バス利用台数	96台	—	94台	114台	12台

※ 校数・バス利用台数は延べ数。

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。

<見学先（令和5年度）>

見学先	見学校数（延べ）
円山動物園	1校
下水道科学館	1校
白石清掃工場	3校
北海道博物館	1校
定山溪自然の村	1校
創成川水再生プラザ	1校
北海道警察本部	1校
札幌市民防災センター	1校

オ 学校での出前講座の実施

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う「出前講座」を実施しています。

近年は、SDGsの普及や地球温暖化・気候変動への関心の高まりにより、これらの講座への依頼が増えており、総合学習などの授業の一環として活用されています。

【SDGs、地球温暖化・気候変動に係る出前講座・授業等実績】

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	令和5年度 11月30日現在
小学校：件数 (参加人数)	4件 (368人)	2件 (180人)	5件 (351人)	4件 (214人)	5件 (287人)
中学校：件数 (参加人数)	2件 (59人)	6件 (1,033人)	8件 (1,202人)	4件 (798人)	8件 (411人)
高等学校：件数 (参加人数)	9件 (1,572人)	2件 (40人)	4件 (365人)	5件 (960人)	2件 (10人)
合計：件数 (参加人数)	15件 (1,999人)	10件 (1,253人)	17件 (1,918人)	13件 (1,972人)	15件 (711人)

カ 環境に関する全園・全校の取組【教育委員会】

教育委員会では、「環境首都・札幌」の宣言日である6月25日の前後2

週間を「さっぽろっ子環境ウイーク」期間とし、この期間中、エコスクール宣言校である全ての市立園・学校が、環境に関わる取組（エコアクション）を重点的に見つめなおすことで、年間を通して、札幌市の幼児児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育んでいます。昨年度は、札幌市立高校の生徒たちが環境問題について探究し、札幌市立小中学校の児童・生徒に問題提起を行うためのアニメーション動画「シマエナガちゃんとまなぼうっ！！」を高校生自身の手で制作しました。また、令和5年4月15日（土）・16日（日）の「環境広場ほっかいどう 2023」において、本取組についての発表を行いました。

今年度は、札幌市立小中学校で、「さっぽろっ子環境ウイーク エコアクション」として、児童や生徒が本動画や倉本聡氏のメッセージ動画を視聴し、環境に関する問題を考え、取組を実践しているところです。



環境広場ほっかいどう 2023 での発表の様子

(2) 「環境人材」の育成

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣【環境プラザ】

市民団体、町内会、学校などに対して、環境に関するアドバイザーやリーダーを派遣する制度です。

「札幌市環境保全アドバイザー派遣制度」は、地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等など、様々な環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣する事業で、令和5年11月30日現在、9人のアドバイザーに登録いただいています。

「札幌市環境教育リーダー派遣制度」は、主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣する事業で、令和5年11月30日現在、23人のリーダーに登録いただいています。

例年利用の多い、川での自然観察、自然体験活動は今年も数が多く、全体の半数近い依頼が川での活動でした。また、今年度の特徴としまして、

小学校や幼稚園の教員に向けた研修会の依頼や、地域団体からの講演の依頼が多く見られました。

新しいニーズに対応できるよう、利用者の声を聞き取り反映して、市民の環境活動の希望に寄り添った支援を継続してまいります。

【派遣実績】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 11月30日現在
環境保全アドバイザー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	39件 (1,764人) <12人>	17件 (304人) <11人>	15件 (327人) <11人>	18件 (479人) <10人>	25件 (1,143人) <9人>
環境教育リーダー 派遣件数 (参加人数) <登録者数>	57件 (1,736人) <31人>	32件 (798人) <29人>	36件 (833人) <28人>	64件 (1,463人) <26人>	54件 (1,337人) <23人>

イ こどもエコクラブ【環境プラザ】

環境プラザは、公益財団法人日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌市内における事務局を担っており、こどもエコクラブへの登録団体及びこれから環境に関する活動を始めようとする団体への情報提供を行っています。また、年に一度開催しているこどもエコクラブ交流会を12月16日（土）に開催し、市内で活動する2団体のエコクラブと共に、農業学習施設 KUBOTA AGRI FRONT の見学とクラブ間の交流を行いました。

環境プラザが主催する「さっぽろあそエコ団」は海でのビーチコーミングと海洋ごみの調査や、秋の円山での自然観察等を行い、さっぽろの四季を楽しむ活動を継続しております。

ウ 指導者向け研修【環境プラザ】

児童会館と共催で公益財団法人キープ協会と連携した、体験活動に関する研修を実施し、児童会館職員に向けてアクティビティづくりのノウハウや、体験を参加者の経験に落とし込むための手法について、ワークショップや座学をとおして知識提供を行いました。

3月には、一般に向けて自然体験活動のプログラムづくりについての講座を企画しており、次年度からの活動を後押しするために内容を検討中です。

エ 環境教育・子どもワークショップ

これからの未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指し、令和2年度から「環境教育・子どもワークショップ」を開催しています。今年度は、令和6年1月20日（土）及び27日（土）に、各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生を対象として開催予定です。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導により子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換するなど、オンラインと対面をミックスして行います。

併せて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生・大学生などの若い世代の人材育成にも同時に取り組むこととし、希望する若者を対象にファシリテーター等の養成研修会を実施し、子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいます。（参考資料5）



昨年度のワークショップの様子

オ 教員に向けた研修【教育委員会】

教育委員会では、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「環境教育へ役立つ施設の活用」や「SDGsの基礎」など環境教育に関する専門的研修を実施し、今年度は延べ150人以上の教員が受講いたしました。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

ア 学習支援等【環境プラザ】

環境プラザ見学者への展示解説や展示物を利用した見学者向け環境教育プログラムの実施、教材の貸し出しなど、利用者の要望に合わせた学習支援を行っています。

見学アクティビティの充実を図るため「北大発スタートアップ企業」であ

る合同会社エゾリンクと共に「脱炭素」をテーマとした見学アクティビティを開発中です。

環境対策の重点となる「脱炭素」をわかりやすく市内外の子どもたちに伝えられる内容を検討しております。

イ 各種講座等の実施【環境プラザ】

藤女子大学の松田先生のゼミ生のみなさんと共催し、ファッションをテーマにエシカルな消費について考えるワークショップの開催や、エネルギーについて風車工作を交えた見学ツアーを NPO 法人北海道グリーンファンと共催で実施するなど、様々な団体企業の皆様と連携し各種講座を実施しております。

1 月以降も札幌国際芸術祭との関連事業や環境カウンセラー協会との連携事業等を計画しております。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

小中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成 20 年度から実施しています。活動の発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことを目的としています。

今年度は、エルプラザ公共 4 施設において、令和元年度以来、4 年ぶりに会場でのステージ発表を実施しました。また、当日の児童・生徒の引率が難しい学校等に配慮し、発表の様子を事前収録し、当日会場で公開するという試みを行いました。

事前収録を希望した学校が一定数あったことを踏まえ、来年度は、なるべく多くの団体が参加できるような形式での開催の検討を進めていきます。

(参考資料 6)



発表の様子



発表団体活動コーナー (会場ロビー)

[令和5年度発表団体] ◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：クリック募金特別賞

学校外団体の部	小学校の部	中学校の部
◎旭山自然調査隊	☆厚別北小学校 (事前収録)	○東栄中学校 食いしん坊ファーム
○さっぽろあそエコ団	☆厚別西小学校5年1組 (事前収録)	◎米里中学校科学部
	◎新川小学校 エネルギー調査隊	
	○田中学園立命館慶祥小学 校 Tule(トゥーレ)グル ープ (事前収録)	

特別発表：札幌市立札幌大通高等学校 遊語（ゆうご）部

審査員長	北海道大学大学院文学研究院 教授	大沼 進 氏
審査員	NPO 法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長	坂本 純科 氏
審査員	札幌平岸高等学校 学校長	黒宮 裕久 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	上田 さおり

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

ア 環境プラザホームページ等【環境プラザ】

環境プラザでは、講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページで情報提供を行っている他、フェイスブック、Instagram での投稿や、「エコチャン!!-環境プラザ YouTube チャンネル」での動画配信で情報発信を行っています。

【ホームページアクセス件数】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 11月30日現在
環境プラザHP	73,648	103,999	106,612	64,751

イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み【環境プラザ】

「環境中間支援会議・北海道」は、行政や地域など、様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議です。環境省北海道環境パートナーシップオフィス（通称：EPO 北海道）、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザが連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を行っています。

また、環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして、定期的に関催される会議に参加しています。

なお、ホームページ「環境☆ナビ北海道」において、環境に関するイベント情報や助成金などの公募情報、キャンペーン情報などを配信しています。

ウ 環境広場さっぽろ 2022・環境広場ほっかいどう 2023 の開催

「環境広場さっぽろ」は、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「みらいを想う総合環境イベント」です。平成 30 年度、令和元年度は札幌ドームを会場に開催しました。

令和 2 年度、令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、札幌ドームでの開催を見送り、札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催しました。

令和 4 年度は、「環境広場さっぽろ 2022」を、令和 4 年 7 月 30 日（土）、31 日（日）の日程で、3 年ぶりに札幌ドームで開催しました。（期間中来場者 15,234 人、バーチャル会場アクセス数 6,036 人、217 企業・団体が出展）

今年度は、G7 札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合実行委員会主催事業として、たくさんの北海道民・札幌市民の方々に楽しみながら環境・SDGs に関心を持っていただくとともに、環境ビジネスの振興等を目的とした展示・体験イベント「環境広場ほっかいどう 2023」を、大臣会合の開催に合わせ令和 5 年 4 月 15 日（土）、16 日（日）の日程で、札幌ドームで開催しました。（期間中来場者 56,199 人、オンラインイベント参加者数 7,268 人、161 企業・団体が出展）



環境広場ほっかいどう 2023 の様子

エ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行

「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をまとめた「環境教育・環境学習ガイド」を毎年度発行しています。

学校や市民への広報、情報提供を行い、各取組への市民参加を促進し、環境教育・環境学習の一層の推進を図ります。

併せて、札幌市各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促します。(参考資料7)

